

【3-2】日常生活支え合い実践事業

幼稚園における地域の方や祖父母との交流の場づくり

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市進徳地区
実施主体 鯖江市進徳幼稚園
所在地 鯖江市長泉寺町 1-9-19
代表者 園長 西教ひろみ



平成23年度の事業概要

・近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品や絵本を整備し、地域の高齢者を招き園児と共に踊ったり遊んだり交流を図る。

①昔話お話し会 (H24.1~隔月1回)

・大型絵本の読み聞かせやテレビ視聴を行った。

②地域高齢者との交流会 (H24.1~月1回)

・ラジカセを活用し、音楽に合わせて伝承遊びを一緒にしたり、DVD再生機能付きテレビで昔話を視聴したり等行った。

③地域の人への活動報告 (H24.2)

・幼稚園の日頃の活動状況をDVD再生機能付きテレビで視聴してもらい園の活動について話し合った。

現在の活動状況

平成24年4月から地域の高齢者と幼稚園で交流活動を実施している。

テレビ等視聴覚教材を活用し、こままわし、まりつき、なわとび等の伝承遊びを一緒にしながら、楽しいひと時を過ごしている。

<概要>

いろいろな行事の準備に来園してもらったり、行事当日に来園してもらい園児と交流する。

<管理>

通常来園してもらうときには名札をつけてもらう。

製作等の費用については一般会計の消耗品費から支出する。

<利用状況>

2カ月に1度ということで6~7名の利用である。

夏祭りなどの大きな行事になると参加者が増える。

発表会にも招待して、高齢者席を設け参観できるようにした。

事業の実績、成果

交流事業を通して地域の高齢者の生きがいがづくり、幼児にとって優しさや思いやりが生まれ、豊かな心を形成することができた。地域とのつながりや交流により地域に開かれた園としての機能を発揮できた。

工夫した点

高齢者が参加しやすいような活動を取り入れた。
特に、昔とった杵づかの伝承遊びに関してはこままわしや、お手玉やケンパの技を子ども達に伝授してもらったようにした。

ラジオ体操は取り組みやすいように、夏休みが終わってからいっしょにするようにした。

読み聞かせや室内遊びなどは、自分の得意なことを発揮していただくように口コミで声かけをした。



課題

幼稚園の周囲に住んでいる高齢者や園児の祖父母には周知できるが、多数の高齢者には事業の開催が周知できないので方法を考える。

幼稚園の施設が高齢者向きになっていないので、危険な場所が多いため支援する人が必要である。

事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。

高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

今後の目標

園訪問日にたくさんの地域の高齢者の方が参加できるようにし、気軽に訪れることができる雰囲気のある園にしたい。

気がかりな子が高齢者と触れ合うことで、心を安定させたり、育ちにつながるような活動を考え実践していきたい。



団体からのメッセージ

幼稚園は地域の高齢者の方が園児と触れ合う場所です。ゲストティーチャーとしてお越しくださっても結構ですし、園児といっしょに遊んでくださっても結構です。